

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

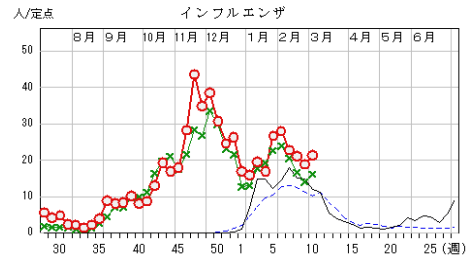
2024年第10週 2024年3月4日（月）～ 2024年3月10日（日） 2024年3月14日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第10週の報告数は1478人で、前週より179人多く、定点当たりの報告数は21.42であった。

年齢別では、10～14歳（453人）、9歳（168人）、7歳（118人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（38.71）、県北保健所（33.50）、県央保健所（24.40）であった。

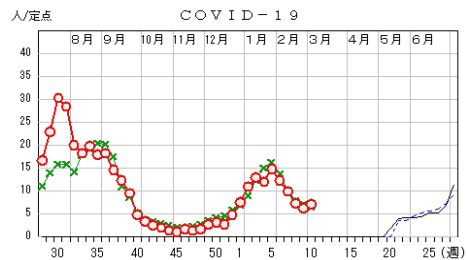


（2）新型コロナウイルス感染症

第10週の報告数は488人で、前週より61人多く、定点当たりの報告数は7.07であった。

年齢別では、10～14歳（66人）、40～49歳（42人）、30～39歳（34人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（22.00）、県北保健所（18.00）、上五島保健所（8.33）であった。

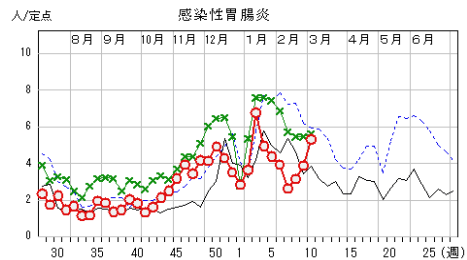


（3）感染性胃腸炎

第10週の報告数は228人で、前週より61人多く、定点当たりの報告数は5.30であった。

年齢別では、6歳（34人）、5歳（30人）、2歳（25人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（9.83）、長崎市保健所（8.50）、県北保健所（6.33）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第10週の報告数は1478人で定点当たりの報告数は21.42となり、前週より増加しました。依然として、警報レベル終息基準値「10」を上回っており、16週続けて警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別では、長崎地区（38.71）、県北地区（33.50）、県央地区（24.40）は、警報レベルを維持しています。また、佐世保地区（19.27）、壱岐地区（17.67）、西彼地区（12.00）は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起り、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第10週の報告数は488人で、前週より61人多く、定点当たり報告数は7.07でした。地区別では、対馬地区（22.00）、県北地区（18.00）、上五島地区（8.33）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第10週の報告数は228人で、前週より61人多く、定点当たりの報告数は5.30でした。地区別にみると佐世保地区（9.83）、長崎地区（8.50）、県北地区（6.33）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

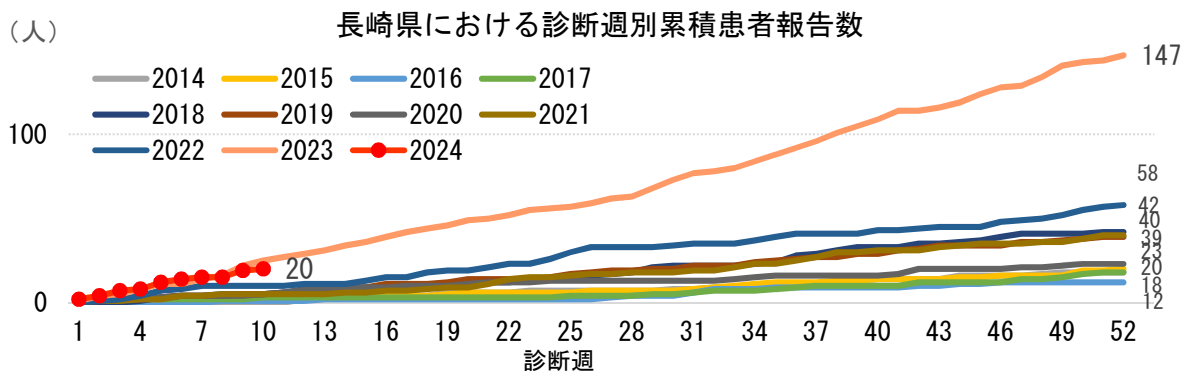
手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

長崎県では2023年に147件の梅毒の報告があり、現行の調査が開始されて以降、過去最多の報告数となりました。2024年は第10週までに20件の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

発生状況は、[長崎県感染症情報センターホームページ内「梅毒の発生状況」](#)に掲載しています。

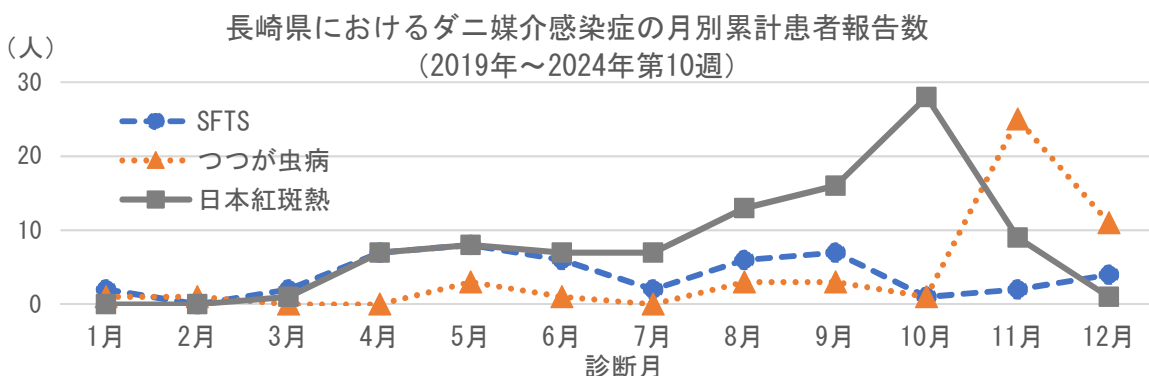


☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

マダニ等の活動が活発になる4月から患者の報告数が増加します。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



★トピックス：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

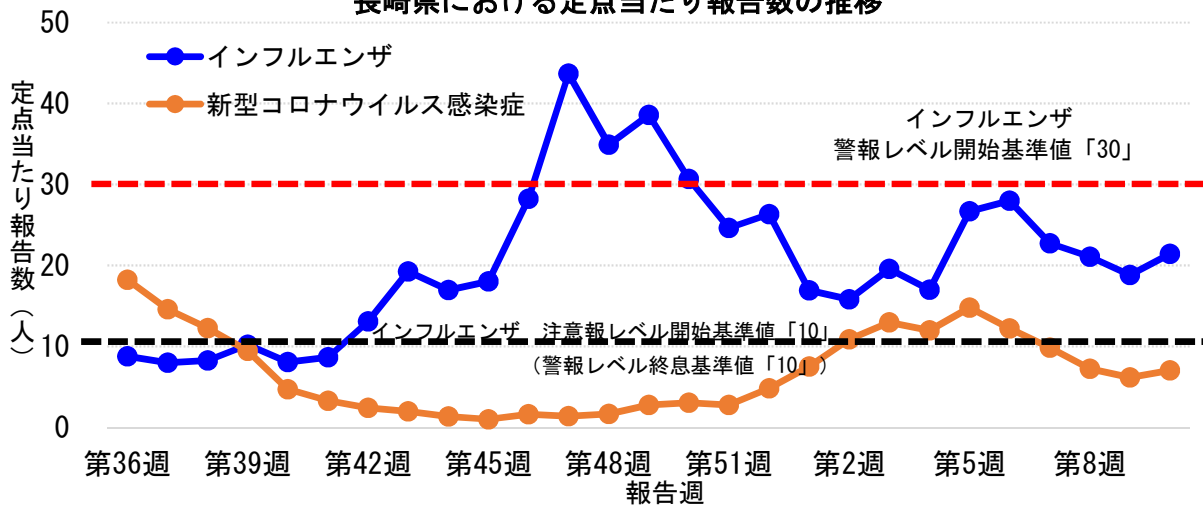
インフルエンザの2024年第10週の定点当たりの報告数は「21.42」で、前週より増加しました。依然として警報レベル終息基準値「10」を上回っており、2023年第47週（11月20日から26日）以降16週間、警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別にみると、10保健所中3保健所（長崎市、県北、県央）で警報レベル、3保健所（佐世保市、壱岐、西彼）で注意報レベルとなっています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「7.07」で、前週より増加しました。

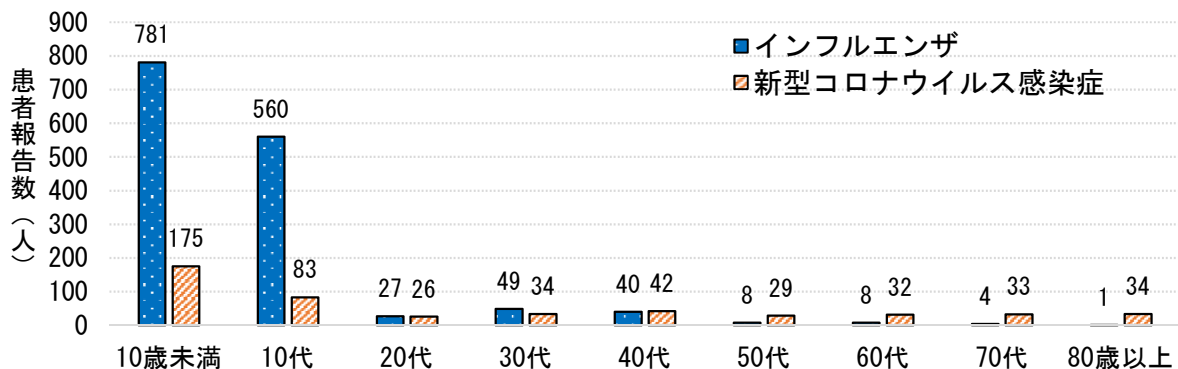
インフルエンザの直近3ヶ月の亜型・系統別の検出状況を見ると、A/H3、A/H1pdm09、B/victoriaの3種類が検出されています。シーズン当初はA型が多く検出されていましたが、11月以降B/victoriaの割合が増加しています。今シーズンは、複数回インフルエンザを発症した症例も報告されています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

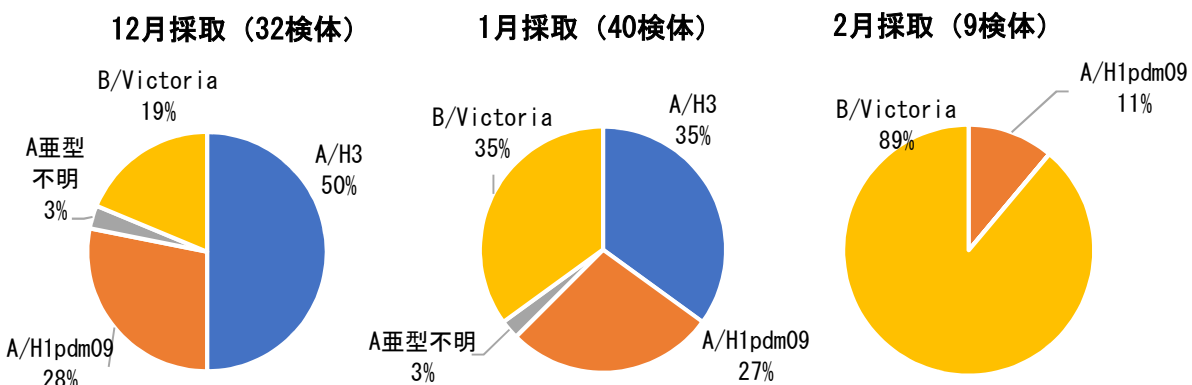
長崎県における定点当たり報告数の推移



長崎県における年代別患者報告数



直近3ヶ月に採取されたインフルエンザ検体からの亜型・系統別検出割合※



※長崎県環境保健研究センターにおいて月に1回実施された検査結果を集計

☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2024年第10週：3月4日から3月10日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

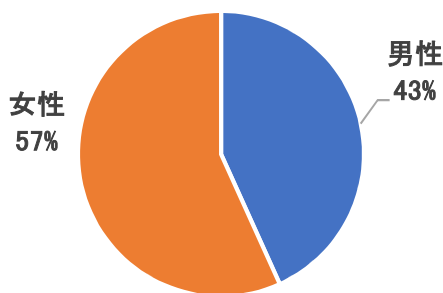
2024年第10週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「7.07」で、前週より増加しました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

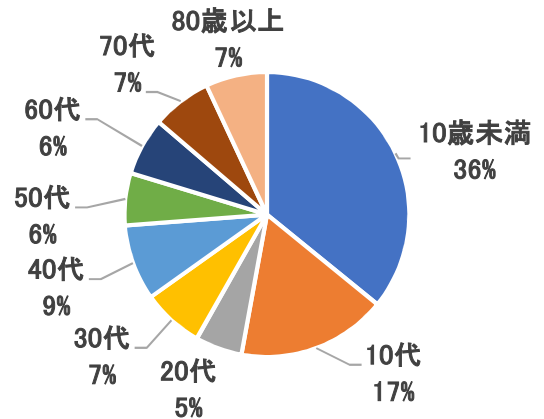
	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	488	110	34	27	74	55	72	10	25	15	66
定点数	69	17	11	6	10	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	7.07	6.47	3.09	4.50	7.40	6.88	18.00	2.50	8.33	5.00	22.00

※県央保健所管内に休診の医療機関があるため、第10週においては、定点数が全体で「69」となっています

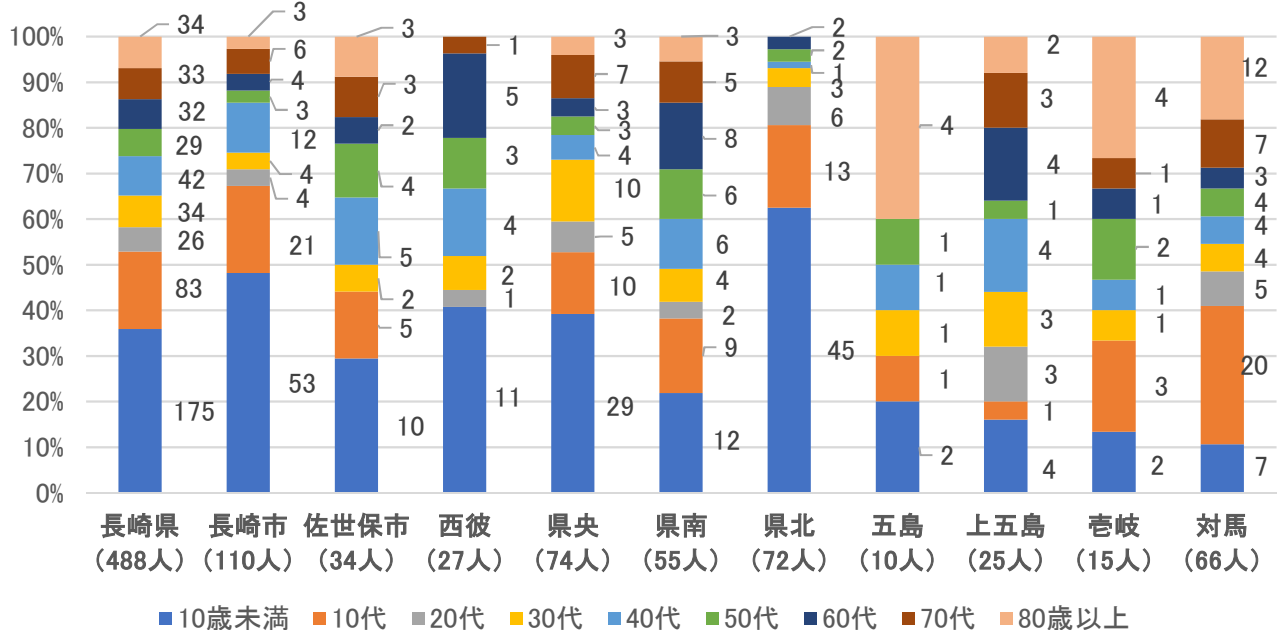
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・2名） 女性（80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 女性（50代・1名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（80代以上・1名）
 つつが虫病 患者 男性（20代・1名）
 5類感染症（全数把握対象）：侵襲性インフルエンザ菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（70代・1名）
 梅毒 無症状病原体保有者 男性（40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第5～10週、1/29～3/10)

疾患名	定点当たり患者数					
	5週	6週	7週	8週	9週	10週
	1/29～	2/5～	2/12～	2/19～	2/26～	3/4～
インフルエンザ	26.69	28.01	22.74	21.07	18.83	21.42
新型コロナウイルス感染症	14.80	12.24	9.87	7.26	6.19	7.07
RSウイルス感染症	0.07	0.02		0.12	0.14	0.05
咽頭結膜熱	1.82	1.98	1.00	0.98	1.21	0.93
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.91	4.89	3.64	2.86	3.74	4.79
感染性胃腸炎	4.36	3.93	2.64	3.16	3.88	5.30
水痘	0.14	0.16	0.32	0.05		0.09
手足口病	0.43	0.41	0.23	0.14	0.21	0.42
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02			
突発性発しん	0.30	0.18	0.23	0.28	0.14	0.35
ヘルパンギーナ		0.07		0.02		0.07
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02			0.07		
急性出血性結膜炎	0.13	0.13	0.13		0.13	0.13
流行性角結膜炎	0.88	0.50	0.75	0.88	0.63	1.00
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						0.17
マイコプラズマ肺炎	0.08			0.08		
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08				

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第10週、3/4～3/10) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	21.42	19.27	38.71	17.67	12.00	24.40	7.50	33.50	2.25	3.33	8.67
新型コロナウイルス感染症	7.07	3.09	6.47	5.00	4.50	7.40	6.88	18.00	2.50	8.33	22.00
RSウイルス感染症	0.05		0.10				0.20				
咽頭結膜熱	0.93	0.17	0.30	0.50	0.25	1.50	1.00	2.67	3.33		1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.79	3.83	2.20	3.00	4.75	3.33	19.00	1.67	2.67	2.50	1.50
感染性胃腸炎	5.30	9.83	8.50		5.25	3.83	4.20	6.33			
水痘	0.09		0.40								
手足口病	0.42		1.00		1.25	0.50					
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.35	0.33	0.30			0.33	1.40	0.33			
ヘルパンギーナ	0.07					0.17		0.67			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	1.00		0.33				6.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.17	2.00									
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											